

「地域資源」ウナギでペットフード

3年後 発売目指す

浜松の業者 関東経産局長に説明

経済産業省関東経済産業局の藤田昌宏局長は十日、浜松市西区雄踏町のウナギ・水産物卸問屋「海老仙」（加茂仙蔵社長）を訪れ、同社が開発中の浜名湖ウナギを使っ



たペットフードの開発事業について説明を受けた。同事業は中小企業地域資源活用促進法に基づき、地域産業資源活用事業計画の第一号認定を受けている。同社は来年三

月に試作品を完成させ、三年後の販売を目指す。加茂仙一郎専務らが同社の業務を紹介し、開発の狙いなどを説明した。ペットフードはウナギの骨や頭を使って製造す

加茂専務（奥の左）からウナギの加工方法について説明を受ける藤田局長（奥の左から2人目）＝浜松市西区の海老仙

る。ビスケットのような乾燥した固体で、犬がおやつとして食べることを想定している。ウナギの粉末化の技術確立や効用の研究が主な課題。
高級ペットフードとして、ペットショップで扱うほか、インターネットホームページを新たに開設して全国展開を目指す。浜松の観光土産として愛犬家向けに売り出すことも計画している。
藤田局長は「マーケットのことをよく考えた取り組み。付加価値の付け方が勝負」と同社の今後の取り組みに期待した。